

海外の話題

「オーストラリア経済雑感（日本との違い）」

Norinchukin Australia マネージング・ダイレクター 澤田 隆一

シドニーに赴任して、早1年半が経過した。この間、オーストラリア経済等について、諸々考えなり思いを巡らせているが、その中の幾つかを紹介したい。

○日本と真逆な経済ファンダメンタルズ

2018年、豪州の人口は2,500万人を突破した。過去10年間で1.6%増のペースだ。自然増と移民（高技能者）がバランス良く寄与している。今後もこのトレンドは継続し、2050年には3,400万人程度になるとの推計がある。社会インフラは明らかに不足で、道路・鉄道、学校・病院、電力・水等への巨額の投資が必要だ。縮小統合を余儀なくされている日本とは、本当に真逆だ。

○ポジティブで楽観的な豪州人

豪州は27年間景気拡大を継続し、幸運にも豪州人は不景気を経験していない。そのためか消費性向が極めて高く、家計の約半数は月額給与を使い切っているとの調査もある。自然も豊富で気候も温暖だ。経済のパイが拡大せず保守的な傾向の強い日本人から見ると、「本当に大丈夫か？」と首を傾けたいくなるが、街中ではあちこちで“No Worries!”との声が聞こえる。

○財・サービスの価格は上がるものなのだ、物価上昇期待について

毎日の通勤に公共交通機関を使っているが、先日運賃が上がった。前は5ドル85セントだったのに、今は6ドル10セントだ。約4%の値上げ。日本では殆ど経験のない公共交通機関の値上げ、新鮮な感じだった。暫くすると毎朝のコーヒーの値段も上がった。レストランも続いた。もう新鮮さはない、流石に慣れてきた。このような経験を経て、“物価は上がる”という物価上昇期待が形成されていくのだろう。一方、日本は物価上昇期待形成を日銀（マネー）頼みにしているが成果がでない。物価上昇を継続して経験する中でゆっくりと形成されるのが、物価上昇期待ではなからうか。

○相続税がない

日本は3代で資産がなくなると言われる高額な相続税問題で頭を悩ませている人が多いが、豪州ではその心配がない。相続税がないのだ。日本では相続税対策として資産防衛的な不動産投資等が行われるが、豪州では価格上昇を見込んで資産形成を企図した不動産投資が行われる。豪州で不動産は“Nest Egg”とも言われ、将来のための蓄えと考えられている。豪州人に相続税対策の不動産投資により賃貸住宅市場の需給バランスが崩れているという話をすると、「じゃ、相続税をやめればいいじゃないか」と言われる。

○日本のサービスは質が高い

シドニーに来てみて、日本のサービスは質が高い、と改めて感じる。当地では時間厳守は期待できず、サービスの質も決して高くない。例えば、レストランではウェイターを呼んでもなかなか来ないし、値段も高いから更に後味が悪い。こんな時、日本が恋しくなる。最近では豪州人の間でも日本のサービスの質の高さは認知されつつあり、例えば、シドニー・東京間のフライトは日系の航空会社から埋まっていくらしく、豪州から日本への旅行者も年々増加している。日本では質の高いサービスが殆どタダ同然で受けられるが、これは彼らにとって宝の山になるのではないか！と思わずにはいられない。